04

子どもや子育て世帯が暮らし やすい居場所づくり・夢づくり

子育て・子育ち豊かな環境整備・次世代のまちの担い手育成

この5年で区の人口が1万人減少し、とくに中堅層の減少が著しい状態にあります。西成区北部とくに萩之茶屋・太子・天下茶屋エリアの高齢化率は45%以上と区内で最も高く、萩之茶屋地区の減少が著しい状況です<2,738人減(22.1%)>。しかし、65歳以上については全体的として高齢化が進んでいるなか萩之茶屋では1割程度減少しています。また子どもについては、6地区以外は減少傾向にあり、萩之茶屋では6割近く減少していることから、子育て世帯対策は危急の課題です。

地域の子ども関連施設へのインタビューから、地域に子どもが少ないにもかかわらず周辺地域からも集まっており(子どもの里では年間1万4000人の子ども達が利用)、結果として「しんどい子ども(家族)を受け止めてきたまち」なのです。

2015年にいまみや小中一貫校が開校し、「交流」「挑戦」「体験」を重視した地域交流や IoT、そして英語教育が注目され、大阪全区から児童・生徒があつまりました。この学校の保護者に対する調査では、地域との連携で最も期待している事として「子どもの居場所・遊び場づくり」をあげています。

地域学習で提案された子ども支援組織による公園 WS など出てきた提案を実現するなど、**01・05** と連動し、まちの担い手育成による西成をふるさとにするまちづくりが重要です。子どもを通じて大人たちのまちづくりへ気づきや意識づくりを深めるアクティブラーニングによって各主体間のつながりを醸成するような取組みが必要です。その他、本物に出会える教育として、西成(出身)のアートやスポーツ・文化との出会いの場や、社会とのつながりから「未来」の担い手を育むことが重要です。

いまみや小中一貫校では、身 近な地域素材を活用した体験 活動や地域との触れ合いを通 して,9年間の学びの連続性 を踏まえた探究的な学習,協 同的な学習を取り入れていま す。あいりん地域に学び、発 信することで地元に愛着と誇 りをもち, 未来に向かう児童 生徒を育成することを目標と しています。右図は、小学6 年間の最後に『自分たちの地 域の未来についてイメージ し、まちを良くする活動の提 案、発信活動を通して、地域 と主体的に関わろうとする。』 ために作られた提案です。

いまみや小中一貫校の地域学習で提案された地域学習 『まちの未来を考えよう』提案 PPT 表紙

